

季刊 旬のブンカが集うコミュニティマガジン

ブンカ

BUNKA

vol.
102
2026
autumn

旬の文化が集うコミュニティマガジン 季刊
ブンカ
BUNKA vol.102 2026.9.15



公益財団法人
福井県文化振興事業団



ハーモニーホールふくい

発行 公益財団法人 福井県文化振興事業団 福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」
〒918-8152 福井市今市町40-1-1 ☎077-638-8288 <https://www.hf.jp>



きよかわ けんじ ● 1964年、福井市生まれ。福井大学大学院工学研究科修士課程修了後、富士通を経て、1992年、清川メッキ工業株式会社に入社。93～95年、会社の業務を行いながら同大学院でめっき装置開発の研究を重ね、工学博士の学位を取得した。2010年1月に代表取締役社長に就任し、現在に至る

清川 肇氏

清川メッキ工業株式会社
代表取締役社長

アートと私

TOP INTERVIEW

自分のスタイルで 書や絵画にチャレンジ

ピアノや茶華道をたしなむ妻に誘われ、コンサートや華展、お茶会と一緒に出かけられるようになり、自然とアートに心惹かれるようになりまし
た。めっき技術は学生時代から磨い
てきましたが、人としての器を大き
くするためには幅広い教養が必要。
出張の際は国内外の美術館や劇場な

技術開発もアートも、唯一無二がおもしろい。

どへ足を運び、本物のアートを見聞
きする機会を作っています。

毎年1月2日の書き初めで新しい
年の会社方針を揮毫するのは、ここ
数年の恒例行事です。また、コロナ
禍をきっかけに始めた水彩画のウエ
ブレッスンは今も楽しく続けていま
す。会長である父は自作の絵を贈り
物などに添えており、「いずれ自分も」
という気持ちがあります。

当社は人真似ではない独創的な発
想で、多様な製品へのめっき技術を
開発してきました。芸術も独創性が
求められる世界。父は最初から我流
を貫いていましたが、私は書道も絵
も基礎を身につけてからの自分流。
書道は年に1回、絵を描くのはレッ
スの時間だけです。そんな中で
も、時間をかけ丁寧に描いた作品が
完成したときの達成感は大きいです。

子どもの夢や学ぶ意欲を 引き出すための支援

当社は、人材育成や地域とのつな
がりを重視しています。新入社員が
孤立感を感じることなく仕事を続け
られるようにと、毎年8月にチーム
で踊る「よさこい祭り」に参加。練習
が同期や先輩と交流を深めるいい機



いろいろな題材を描いてきた中で、生後8カ月の孫の肖像画が一番のお気に入り。「妻や娘の絵は、「似てない」と言われましたが、最近描いたこの絵は好評。額装し部屋に飾った最初の作品です」

CONTENTS

- 1 笑門来福 — 今号の表紙 —
- 2 TOP INTERVIEW アートと私 清川 肇氏 (清川メッキ工業株式会社 代表取締役社長)
- 3 Interview ウィーンが育んだスター 今、充実の時を迎えて ヴァイオリニスト 郷古 廉氏
- 5 「ハーモニーホールふくい」自主公演情報
- 9 2026年 10～12月開催「ハーモニーホールふくい」コンサート情報
- 10 越のルビーアーティスト 嶋川 菜友子氏 (クラリネット)
- 11 ふくい文化創造センター News.06 アートプロジェクトとその可能性
- 13 アートシーン 〈キーパーソン〉Kato Sumiko foundation project 代表 岡 俊徳さん
〈アートの息吹〉ガラス工房KEiS庵 (小浜市) / 〈アートプロジェクト インフォメーション〉
- 15 寄稿 一乗谷の石仏たち～秋の夕日にあの世を想う～ 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館学芸員 多田明加氏
- 16 古きを訪ねて 表児の米 (坂井市丸岡町)
- 17 Essay 敦賀市「ちえなみき」と「氣比の杜」に見る文化施設の新しい形 文 朝倉由希氏
- 18 Information

笑門来福 — 今号の表紙 —

脩齊門 (坂井市立三国南小学校)
坂井市三国町山王1-1-50

三国南小学校にはグラウンドに面する北側の正門のほか、西側に2本の笏谷石の門柱が建つ入り口があります。脩齊門と呼ばれるこの門柱、実は明治時代に西洋風の建築で衆目を集めた龍翔小学校の校門。向かって右の石には「業精干勤」、左には「行成于思」と、唐の文人・韓愈の漢詩の一節が刻まれています。それぞれ「学業を勤勉にすれば結果が得られる」「行いは思い続けることでそのようになる」という意味。まさに子どもたちの学びの場にふさわしい言葉です。北前船で栄えた三国湊では幕末、商人たちの手で学問所「斯文館」が開かれましたが、これは当時としては画期的なことだったそう。この校門からも、三国の先人たちの気概が感じられます。



門柱の裏には、明治20年11月の日付と石工、彫刻師の名前が刻まれている

ヴァイオリニスト

郷古 廉

Sunao Goko

ウィーンが育んだスター
今、充実の時を迎えて



ごうこ・すなお●2013年ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリン・コンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。1993年生まれ。宮城県多賀城市出身。2007年12月のデビュー以来、各地のオーケストラと共演。これまでに勅使河原真実、ゲルハルト・ボッセ、辰巳明子、バグエル・ヴェルニコフの各氏に師事。使用楽器は1682年製アントニオ・ストラディヴァリ(Banat)。個人の所有者の厚意により貸与される。2024年4月、NHK交響楽団第1コンサートマスターに就任。2025年1月よりみやぎ終大使に就任

ハーモニホールふくいが開催する「マイスターシリーズ」のトップバッターとして登場するのは、ソリストとNHK交響楽団第1コンサートマスターの二刀流で活躍する郷古廉さん。2007年のデビュー以来常に注目を浴び続けてきたスター・ヴァイオリニストです。そんな郷古さんにこれまでの道のりや、音楽家として大切にしていることについて伺いました。

東北の自然の中から才能を開花させる

「ヴァイオリンという楽器に興味を持ったきっかけは、2、3歳の頃に2人の姉のピアノ発表会で聴いたヴァイオリンの音色に惹かれたことです。5歳でレッスンをスタートしましたが、子どもの頃は特にプロを目指すという意識はなかったと思います」

宮城県多賀城市生まれで、東北の豊かな自然の中で遊ぶのが好きなごく普通の少年だったという郷古さんですが、小学校高学年ぐらいからコンクールに出場したことなどを機に、徐々に「演奏家が自分には合っているのかもしれない」と思い始めたそうです。中学に進んで海外の先生のマスタークラスなどを受講しますが、その中に生涯の師となったバグエル・ヴェルニコフがいました。本格的にヴェルニコフに師事するために、高校1年生の時にウィーン市立音楽芸術大学へ留学することに。ウィーンというヨーロッパの文

化の中心的な場所で学べたことは、郷古さんの中でも大きな財産になったようです。

「大学には、ドイツやオーストリアをはじめ、ロシア系など、さまざまな国籍の学生が大勢集まっていました。バックグラウンドが全く違うため、お互いにわかり合えない」という前提から会話が始まります。皆が言葉で表現しようと努力し、違いを認め合おうとする文化があり、良いも悪いもはっきりと表現する点が日本と大きく違いました。もちろん、日本人同士だっ

クラシックの本場で感じた空気とともに

9年半にわたるウィーン生活を通して郷古さんにとってもっとも重要だったのは、場所の持つ空気を感じることでした。

「音楽自体を学ぶことはどこにいてもできます。ただ、実際にその場に行って体験したことが演奏にとって決定的な違いをもたらすということは確かにあると思うんです。ウィーンには、ベートーヴェンやシューベルトの時代の景色が今でも残っています。彼らが見たのと同じ景色を見ることが、偉大な作品によりフレンドリーに向き合えることができるようになりました」

ソロとオケ 二足の草鞋から得られるもの

2019年に帰国して以降は、プライベートでは結婚や子どもの誕生、そして2022年からはN響のゲスト・アシスタント・コンサートマスター、2024年からは第1コンサートマスターに就任するなど、目まぐるしい変化を経験してきた郷古さん。

「コンマスという立場は人間力が試される場面も多く、時にプレッシャーを感じることもありますが、それも含めて楽しんで

ています。この大変ながらも充実した活動形態をできるだけ保ち、どこまで行けるか試してみたいです」

13歳の時から使用している愛器ストラディヴァリ(Banat)とともに、12月にはオルガンとの共演を披露してくれそうです。

「僕自身、オルガンとの共演は1回しかないのでありますが、ハーモニホールふくいの素晴らしいオルガンと共にその可能性を試してみたいと思っています」

構成・文／室田尚子
(音楽評論家)

12/6(日)

協賛: FUKUVI

マイスターシリーズI

郷古 廉&大木麻理
ヴァイオリン&オルガンコンサート

大ホール/13:15開場 14:00開演
全席指定・車いす席 ¥3,000(小〜大学生:半額)
出演/ヴァイオリン:郷古 廉、オルガン:大木麻理
曲目/ヴィターリ:シャコンヌ〜ヴァイオリンと通奏低音のための
フランク:ヴァイオリン・ソナタ ほか ※詳細はP.5へ

ヴァイオリンを始めた幼い頃





ピアノ：金子三勇士 指揮：トマーシュ・ネピル

協賛：福井銀行 FBC

ニューイヤーコンサート2027 トマーシュ・ネピル指揮 プラハ交響楽団 ピアノ：金子三勇士

2027.1.10(日)

12:45開場 13:30開演／大ホール
S席・車いす席 ¥12,000 A席 ¥10,000 B席 ¥8,000 バックシート ¥6,000

(小～大学生：半額) 特別協賛会員・友の会会員 2割引

出演／指揮トマーシュ・ネピル、ピアノ：金子三勇士、管弦楽：プラハ交響楽団
曲目／ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」
チャイコフスキー：交響曲 第5番 ほか



無料バス運行！
(全席指定・車いす席)
ハーモニバス



無料バス運行！
(全席指定・車いす席)
フレンドリーアート号

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：10/6(火) 友の会：10/7(水) 一般 10/10(土)

2027年の幕開けを彩る王道クラシック

2024年のニューイヤーコンサートに登場し大好評を博したプラハ交響楽団が、再びニューイヤーに登場します。プラハ響は、1934年に設立されて以来、チェコの音楽文化を世界に発信し続けてきたオーケストラ。今回は、2025年から首席指揮者・音楽監督を務めるチェコ出身のトマーシュ・ネピルの指揮のもと、ベートーヴェンとチャイコフスキーの名曲を聴かせてくれます。

メインとなるチャイコフスキーの交響曲第5番は、「宿命」をテーマとした作品で、宿命の前で絶望しながらも最後は悲しみに打ち勝って永遠の幸福を得る、というプログラムが描かれるたいへんどラマティックな作品。特に第2楽章は、チャイコフスキーならではの心に染みこむような美しい音楽が展開されます。また、第3楽章が優雅なワルツになっているところにも注目。管楽器の鮮やかな響きと、表情豊かな弦楽器が紡ぎ出す「チェコ・サウンド」を存分に堪能ください。

共演には、福井でも人気を誇るピアニストの金子三勇士が登場。6歳から単身ハンガリーに留学、



管弦楽：プラハ交響楽団



フルート、プロデュース 打楽器デュオ：杉原夏海 カメハ(永野雅晴・永野仁美)



過去公演の様子

打楽器の魅力満載！一緒に演奏もできます

2人の子どもを持つフルート奏者の杉原夏海がプロデュースする今回の「秋の子ども音楽会」には、人気の打楽器デュオ「カメハ」が登場。お客様にマラカスを作ってきていただき、一緒に演奏するコーナーを予定しています。聴いて、見て、演奏して、一緒に音楽を楽しみましょう。

協賛：NICCA

ステージで楽しむ「秋の子ども音楽会」

10.4回

2回公演 ①10:30開場 11:00開演 ②13:30開場 14:00開演
大ホールステージ

ステージ席(全席自由) ¥2,000(0歳～高校生：半額)

出演／フルート、プロデュース：杉原夏海、打楽器デュオ：カメハ(永野雅晴・永野仁美)

曲目／アンダーソン：シンコペイテッド・クロック、越前信義：おもちゃのチャチャチャ

THE BOOM：風になりたい ほか

《制作補助：一般公募のディレクターズ》

チケット発売中

MAISTER SERIES マイスターシリーズ



ヴァイオリン：郷古 廉 オルガン：大木麻理

この冬、ハーモニホールふくいがお届けする「マイスターシリーズ」は、国内外の一流の演奏者による室内楽の演奏会です。オーケストラの人気コンサートマスターが、趣向を凝らした編成で感動の音楽体験へと誘います。

第1弾はN響第1コンサートマスターの郷古廉と実力派オルガニスト大木麻理が登場。実はオルガンとヴァイオリンはとても相性の良い楽器。フランクの「ヴァイオリン・ソナタ」をはじめとする名曲をこの編成で聴ける機会は滅多にありません。郷古が長年愛用するストラディヴァリ「Banat」、当ホールが誇るオルガンとが響き合う至高のひとつとなるでしょう。

名コンマスたちが魅せる！
多彩な室内楽の世界



リヴァラン弦楽四重奏団

第2弾は東京フィルハーモニー交響楽団コンマスの近藤薫プロデュースによる「リヴァラン弦楽四重奏団+1」。「ライヴ感が素晴らしい」というお客様の声にお応えして昨年に引き続きの登場です。第3弾はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の元第1コンサートマスター、ライナー・キュッヒルが長年の共演者、ピアノの加藤洋之と共に、没後200年を迎えるベートーヴェン作品をお届けします。そして第4弾は、当ホールのレジデント・カルテットを務めたトリオAXISが2年ぶりにカムバック。神奈川フィルハーモニー管弦楽団コンマスの石田泰尚と共にドヴォルザークの名曲をお贈りします。

マイスターシリーズI

協賛：FUKUVI

12/6(日)

郷古 廉&大木麻理

ヴァイオリン&オルガンコンサート

13:15開場 14:00開演／大ホール 全席指定・車いす席 ¥3,000(小～大学生：半額)

出演／ヴァイオリン：郷古 廉、オルガン：大木麻理

曲目／フランク：ヴァイオリン・ソナタ、ヴィターリ：シャコンヌ、J.S.バッハ：パッサカリアとフーガ ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：9/15(火) 友の会：9/16(水) 一般 9/19(土)

マイスターシリーズII

協賛：URALA communication

2027.1/17(日)

近藤 薫プロデュース

リヴァラン弦楽四重奏団 +1(プラス・ワン)福井公演

14:15開場 15:00開演／小ホール 全席指定・車いす席 ¥4,000(小～大学生：半額)

出演／ヴァイオリン：川久保陽一、近藤 薫、ヴァイオリン：佐々木 亮、チェロ：クリスティアン・ギガ

曲目／ブラームス：弦楽五重奏曲 第2番 ほか (企画制作：長野市芸術館)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：10/6(火) 友の会：10/7(水) 一般 10/10(土)

マイスターシリーズIII

協賛：FM FUKU

2027.2/13(土)

ライナー・キュッヒル ヴァイオリン・リサイタル

ピアノ：加藤洋之

～ベートーヴェン没後200年記念～

13:15開場 14:00開演／小ホール

全席指定・車いす席 ¥4,000

(小～大学生：半額)

出演／ヴァイオリン：ライナー・キュッヒル

ピアノ：加藤洋之

曲目／ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第5番「春」

第9番「クロイツェル」 ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：11/10(火) 友の会：11/11(水) 一般 11/14(土)

マイスターシリーズIV

協賛：Kowa 興和江守株式会社

2027.3/6(土)

トリオAXIS feat.石田泰尚

ピアノ：高橋優介

～ドヴォルザーク 故郷への想い～

13:15開場 14:00開演／大ホール

全席指定・車いす席 ¥5,000(小～大学生：半額)

特別協賛会員・友の会会員 2割引

出演／ヴァイオリン：石田泰尚、佐久間陽一

ヴァイオリン：生野正樹、チェロ：奥泉貴圭

ゲスト：高橋優介(ピアノ)

曲目／ドヴォルザーク：交響曲 第9番「新世界より」 第2楽章(弦楽三重奏版)、ピアノ五重奏曲 第2番 ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：12/15(火) 友の会：12/16(水) 一般 12/19(土)



石田泰尚 佐久間陽一 生野正樹 奥泉貴圭 高橋優介



企画構成・お話し：田口道子



ソプラノ：吉田珠代



メゾ・ソプラノ：林 真咲



テノール：澤原行正



バリトン：町 英和



ピアノ：古藤田みゆき

日本を舞台にしたオペラ『蝶々夫人』はブッチーニの代表作であると同時に、数あるイタリア・オペラの中でも屈指の人気作品として世界中で上演されています。今回演出を手がける田口道子は、本場ミラノのヴェルディ音楽

院で学び、ミラノ・スカラ座などで経験を積んだ国際的演出家。そんな田口が、吉田珠代をはじめとする今が旬の歌手たちと共にお届けする本公演は、『蝶々夫人』のエッセンスを90分に凝縮したスペシャルな舞台です。すでに開催されたマスタークラスでは、田口が本場で学んだオペラのノウハウを受講生たちに情熱的に伝え大好評を博しました。10月16日(金)に、学生向けの公開リハーサルも予定されています。「これぞ本物のブッチーニ」という舞台を、あなたもぜひ目撃してください。

ムーティも認めた演出家が贈る「本気のブッチーニ」

協賛：福井新聞社 FBC 福井テレビ
越のルビープロジェクトSpecial
お話と歌でたどる愛の悲劇—
オペラハイライト『蝶々夫人』

10.18日

13:15開場 14:00開演／小ホール
全席指定・車いす席 ¥3,500
(小〜大学生:¥1,500)
出演／企画構成・お話し：田口道子
ソプラノ：吉田珠代
メゾ・ソプラノ：林 真咲
テノール：澤原行正
バリトン：町 英和
ピアノ：古藤田みゆき

チケット発売中



エウローパ・ガランテ

イタリア・バロックの世界が今、ここによみがえる！
ファビオ・ビオンディ率いるエウローパ・ガランテは、イタリア・バロック音楽の真髄を伝える団体として、世界的に評価されています。そもそも「バロック」とは「歪んだ真珠」という意味で、美術や建築のジャンルで使われ始めた言葉。中世以来の形式的なスタイルに比べ、より生き生きとした感情表現を特徴としていました。音楽の世界でも17世紀から18世紀前半にかけて、イタリアを中心としてオペラや協奏曲、ソナタといったジャンルの楽曲が数多く生み出されています。それらは感情豊かで、ヴィヴィッドな色彩感あふれるもの。エウローパ・ガランテは、そんなイタリア・バロック音楽の真の姿を現代に甦らせたアンサンブルです。
今回取り上げる曲の中でも、特に注目なのはヴィヴァルディの「四季」でしょう。季節によって移り変わる情景が目の前に現れるような、劇的な表現が特徴です。またヴァイオリンの華やかな技巧も大いに耳を楽しませてくれます。「ヴィヴァルディ演奏の新しい世界基準」と評されるエウローパ・ガランテによる「四季」は、300年前のイタリア・バロック音楽が持っていた生命力を感じさせてくれる、またとない機会になるにちがいないと思います。

ファビオ・ビオンディ指揮
エウローパ・ガランテ
華麗なるイタリアンバロックの世界
11.8日

13:15開場 14:00開演／小ホール 全席指定・車いす席 ¥5,000(小〜大学生:半額)
出演／指揮・ヴァイオリン：ファビオ・ビオンディ、古楽器アンサンブル：エウローパ・ガランテ
曲目／コレリ：合奏協奏曲 第4番、ヴィヴァルディ：「四季」全曲 ほか
(共催：FBC)

先着85名様無料ご招待！

対象／小学1年生〜18歳以下 詳細はこちら
受付期間／10/25(日)17:00まで



チケット発売中



クラリネット：嶋川茉友子



ピアノ：谷口佳奈香

嶋川茉友子は鯖江市出身の越のルビーアーティスト。中学で吹奏楽と出会い、大阪音楽大学短期大学を経てドイツのカールスルーエ音楽大学に留学。ドイツを拠点にヨーロッパ各地で

ドイツ仕込みの才能が今、ここ福井で花開く

協賛：福井新聞社 FBC 福井テレビ
越のルビープロジェクト
嶋川茉友子
クラリネット・リサイタル
クラリネットを愛したドイツの音楽家たち

11.28日

13:15開場 14:00開演／小ホール
全席指定・車いす席 ¥3,000
(小〜大学生:半額)
出演／クラリネット：嶋川茉友子
ピアノ：谷口佳奈香
曲目／ウェーバー：協奏的大二重奏曲
ヴィンヤン：ファンタジー
ブラームス：クラリネット・ソナタ
シューマン：3つのロマンス ほか

チケット発売中

演奏活動を経て、2022年にモスクワ国際音楽オンラインコンクール、第4回タヌビヤ・タレント国際音楽コンクール(室内楽部門)で第1位を受賞した後、2023年に帰国しました。今回プログラムに選んだのは、「この曲を演奏するために私はクラリネット奏者になると思った」と語るほど思い入れの深い曲で、ドイツで培った経験が存分に活かされる選曲です。
ウェーバー「協奏的大二重奏曲」は、自身が優れたピアニストでもあったウェーバーらしく、クラリネットとピアノが対等な立場で奏で合う作品。「ファンタジー」の作曲家ヴィンヤンは現代ドイツを代表する存在で、特殊奏法も交えたテクニカルな曲調が魅力です。そしてブラームスの「クラリネット・ソナタ」は、クラリネット奏者にとって最も重要なレパートリーであると同時に、ドイツ・ロマン派を代表する1曲。共演のピアニスト谷口佳奈香と共に、豊かで奥深い19世紀から現代のドイツ音楽の世界を深掘りしていきます。



アルタン



ダンス：ダン・ステイシー

フィドルの聖地アイルランド最北部のドニゴール州出身のアルタン。デビュー以来躍動感溢れるドニゴールの伝統音楽(ダンス曲)で世界中を魅了してきました。そして彼らの魅力のもう一つが、英語とは全く違うアイルランド語で歌われる美しいメロディのヴォーカル曲。どこか懐かしさを感じさせ、琴線に触れる日本人も多いと言われています。さらに、昨年聴衆を沸かせたダン・ステイシーがフィドルの調に乗って華麗なダンスで盛り上げます。お馴染みのクリスマス・マルシェも開催予定です。

アイルランド最高峰バンドが贈る
ケルトなクリスマス

協賛：福井テレビ
ケルティック・クリスマス2026
アイリッシュ・トラッドバンド
アルタン with ダン・ステイシー
12.12日

14:15開場 15:00開演／小ホール
全席指定・車いす席 ¥5,000(小〜大学生:半額)
出演／アルタン
(フィドル・ヴォーカル：マレー・ニ・ウィニー
アコーディオン：マーティン・トゥーリッシュ
ブズーキ：カール・オー・カリン
ギター：マーク・ケリー
フィドル・ヴォーカル：クレア・フリール)
ダンス：ダン・ステイシー

〈同日開催〉

①ダン・ステイシーによる
ダンス・ワークショップ
要申込。詳しくはこちら
②クリスマス・マルシェ
※詳細は10月末情報公表予定



チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：9/15(火) 友の会：9/16(水)
一般 9/19(土)



しまかわ・まゆこ ● 鯖江市出身。武生商業高(現:武生商工高)を経て大阪音楽大学短期大学部へ。卒業後の2014年にドイツに留学、カールスルーエ音楽大学、 Folkwang 芸術大学大学院を修了。ヨーロッパ各地で演奏経験を積み、2023年に帰国。現在、実家がある鯖江市と夫が住む長野県松本市の二拠点で演奏活動や後進の指導にあたっている

クラリネットが大好きで夢中で突き進んできました。今の私の音、聴いてください。

クラリネットを始めたのは、中学の吹奏楽部。「それまで習っていたピアノは1人で複数のパートを担当するけれど、この楽器は1つのメロディーだけに集中して、自由に表現できる」と、たちまち夢中に。毎日部活

動のために登校し、高校に入ると憧れの顧問のもと練習に明け暮れました。

大学は「音大に2年制と4年制があるなら2年で十分」と思い込み、短期大学部に進学。「すぐに後悔しました。そんな程度で学べるものではありませんでした」。ストイックに技術を磨く一方で、進むべき道を探してさまざまな国の講師に教えるを乞い、一番感覚が合ったドイツへの留学を決意します。

現地で身に染みたのは、自分の意見を持つことの重要性でした。「技術は完璧だが、君の音が聴こえてこない。つまらない」と言われて。私の演奏は、先生の要求に応じていたにすぎなかったと気づかされました。

約9年間、自分の音を模索するうちに、「やりたいことが音とともに湧き出てくるようになったんです」と言います。

帰国した現在は、福井と夫の住む長野を行き来する生活。個人レッスンや吹奏楽部の指導に

も力を入れています。「教えるためには言葉で伝える必要がある。それは自身の表現を磨くことにもつながります。演奏家として東京や大阪で、そして一度世界へという気持ちはもちろんあります」。

その一歩として、11月に開催するリサイタル。プログラムは嶋川さんが今一番聴いてほしいドイツ音楽です。「ハーモニーホールふくいでリサイタルを開くのが、学生の頃からの夢でした。憧れの場所で、今の私の音を聴いていただけることに感謝します」と笑顔を見せます。

越のルビーアーティストとは、(公財)福井県文化振興事業団運営の「越のルビーアーティストバンク」に登録する福井県出身もしくは在住のプロの演奏家のこと。このアーティストバンクの活動に(公財)げんぐんふれあい福井財団にご支援をいただいております。

公式ホームページでは「越のルビーアーティスト」の演奏動画もご覧いただけます。
https://www.hbf.jp/artistbank/

■今後の活動
2027年3月6日(土): スプリングコンサート
会場: 鯖江公民館大ホール
2027年4月3日(土)・4日(日): 武生商工高等学校吹奏楽定期演奏会
会場: 越前市文化センター



引退前、高校時代の恩師・植田先生と同期6人とともに
ドイツのケルンで開催されたクラウグラウムフェスティバル公演で



越のルビーアーティスト

福井ゆかりの音楽家

嶋川茉友子(クラリネット)

12月

6 マイスターシリーズI 郷古 廉&大木麻理 ヴァイオリン&オルガンコンサート

●大ホール ●14:00開演
●全席指定・車いす席:3,000円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」対象公演
小学生~18歳以下無料ご招待
(先着順/要申込)
※申込方法はWEBサイトをご覧ください

12 ケルティック・クリスマス2026 アイリッシュ・トラッドバンド アルタン with ダン・ステイシー

●小ホール ●15:00開演
●全席指定・車いす席:5,000円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

13 パイプオルガンと歌う ふくいの第九 2026

●大ホール ●14:00開演
●全席指定:2,000円
高校生以下:1,000円
※ふくい第九を歌う会 堀内
☎080-2576-4420

15 第39回 ハーモニー・ブンカさろん 〜ドヴォルザークの眼差し〜 故郷ボヘミアからヨーロッパ、そして新世界アメリカへ

●小ホール ●13:30開演
●全席自由・車いす席:2,500円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

19 福井合奏団 第62回 定期演奏会

●小ホール ●17:00開演
●一般:2,000円 小中高生:1,000円
(当日500円増)
※福井合奏団 橋本
☎080-4254-4904

20 第74回 福井大学フィルハーモニー管弦楽団 定期演奏会

●大ホール ●13:30開演
●全席自由:500円(高校生以下無料)
※福井大学フィルハーモニー管弦楽団 須藤
☎080-4521-7771

Music style2026
〜ピアノ・エレクトーン発表会〜
●小ホール ●13:00開演
●無料(関係者のみ)
※ゆきえんせいの音楽教室
☎my_yauchi@yahoo.co.jp

27 松井恵美子門下生 ピアノ発表会

●小ホール ●14:00開演
●無料
※松井 ☎0776-24-7245

14 打Empathy vol.25 結成15周年 アニバーサリーコンサート ~その先へ~

●小ホール ●13:00開演
●一般:3,500円 学生:1,000円
※Pulse Du
☎cheeee0922@yahoo.co.jp

15 第37回 越前ウィンドアンサンブル 定期演奏会

●大ホール ●15:00開演
●全席自由:500円
※越前ウィンドアンサンブル
☎info_admin@echizen-wind.com

19 輝け! 昭和歌謡 思い出の一曲

●小ホール ●11:30開演
●全席自由:500円(当日券のみ)
※ヴォーカリスト福井 華村
☎090-3298-2093

21 大人のくつろぎ音楽堂フェス「JAZZ井2026」

●大ホール ●14:30開演
●全席指定:9,500円
ベア券:18,000円
バックシート:8,500円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

22 福井交響楽団 オータムコンサート2026

●大ホール ●14:00開演
●一般:1,000円
大学生以下:500円
※福井交響楽団
☎fukui.iso@gmail.com

22 混声合唱団福井コールアカデミー 結成40年記念 第36回定期演奏会

●小ホール ●14:00開演
●全席自由:1,000円
※混声合唱団 福井コールアカデミー 赤尾
☎080-1011-5640

23 ウインドアンサンブル・ソレイユ・ふくい 第27回定期演奏会

●小ホール ●14:00開演
●全席自由:500円(高校生以下無料)
※ウインドアンサンブル・ソレイユ・ふくい 福島
☎080-1462-0826

28 越のルビープロジェクト 嶋川茉友子 クラリネット・リサイタル クラリネットを愛したドイツの音楽家たち

●小ホール ●14:00開演
●全席指定・車いす席:3,000円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

29 第47回 福井マンドリンクラブ 定期演奏会

●小ホール ●14:30開演
●無料
※福井マンドリンクラブ 清水
☎kousukeguitar2@gmail.com

ハーモニーホールふくい コンサート情報

CONCERT INFORMATION

[2026.10.11.12]

10月

4 ステージで楽しむ「秋の子ども音楽会」

●大ホールステージ
●①11:00開演/②14:00開演
●ステージ席(全席自由):2,000円
(0歳~高校生:半額)
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

こもれ陽の会
第25回 Vocal Concert
〜オペレッタ「こうもり」
ハイライト日本語上演〜
●小ホール ●14:00開演
●一般:2,000円 学生:1,000円
※こもれ陽の会 天勝
☎090-2120-4922

6 第38回 ハーモニー・ブンカさろん 〜「皇帝」を「弾く」ということ〜 強さと静けさのあいだで〜

●小ホール ●13:30開演
●全席自由・車いす席:2,500円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

10 秋のハーモニーフェスティバル

●ハーモニーホールふくい全館
●10:30開始
●無料 ※一部体験コーナーは有料
※(公財)福井県文化振興事業団
☎0776-38-8282

12 ふくい県民総合文化祭 第19回 「邦楽ふれあいフェスティバル」

●大ホール ●13:00開演 ●無料
※邦楽ふれあいフェスティバル運営委員会 水井
☎090-3291-0669

17 大坂桐蔭高等学校吹奏楽部 特別公演 in 福井

●大ホール ●17:30開演
●一般:2,000円 中学生:1,000円
小学生以下:500円
※大坂桐蔭高等学校吹奏楽部桐音会
☎support@toinsb.com

11月

1 半崎美子 コンサートツアー2026 ~地球へ~

●大ホール ●15:00開演
●全席指定・車いす席:6,000円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

7 歌心りえ コンサート 2026 Sing A Life

●大ホール ●15:30開演
●全席指定:7,500円
※FBC・清水芸術企画 福井公演事務局
☎076-223-3570

8 ファビオ・ピオンディ指揮 エウロ・バ・ガランテ 華麗なるイタリアンバロックの世界

●小ホール ●14:00開演
●全席指定・車いす席:5,000円
※ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」対象公演
小学生~18歳以下無料ご招待
(先着順/要申込)
※申込方法はWEBサイトをご覧ください

※□部は、当ホールの自主公演でP.3~P.8、P.18に見どころなどが紹介されています。(11/1、11/8、11/28、12/6、12/12は、小学生から大学生まで半額)
※掲載内容は都合により変更される場合がありますので、予めご了承ください。(9/2時点の情報です) ※チケットに関するお問い合わせは、各主催者までお願いします。

アートプロジェクトとその可能性

ふくい文化創造センターが伴走支援を行う「アートプロジェクト」。
その意義や可能性、動き始めたばかりの福井の現状を、どのように感じているのか、
福井県文化振興事業団の芸術文化アドバイザーに就任した
森司さんに語っていただきました。

モヤモヤしながら
探すプロセスこそが重要。
僕らができるのは伴走支援。

近年注目されている「アートプロジェクト」は、アート作品を創ることや鑑賞する行為ではなく、創作のプロセスを重視する。複数人が協力して進めることも特徴のひとつで、さまざまな波及効果が期待される。

アートプロジェクトは現代美術を中心に、1990年以降日本各地で行われている共創的芸術活動。僕が「東京アートポイント計画」で本格的に関わり始めてから十数年になります。何かを作り上げる過程で、関わっている全員が経験を積み、成長していく営み。それがアートプロジェクトの本質です。

一般的な助成事業との違いは「伴走支援」です。アーツカウンシルは資金面

だけではなく、関わる人たちの行動をサポートし壁打ち相手となることで、事業が独りよがりにならないようにする。受け止めて立ち止まらせる機会があるかないかで、プロジェクトの輝き方も違ってくるんです。

アートプロジェクトは何のために行うのかと問われたら、「豊かになること」と答えますね。お金持ちという意味ではなく、何かいいな、楽しそうだなって感覚を持つこと。人が集まると大抵こじれるし「やらなきゃ良かった」って思うものだけど、そこを乗り越えて続けていると、ちよつとした面白さとか気づきがある。それが心の豊かさだと思います。会話を重ねることで新しい関係性やアイデアが生まれる。今までにないことをするのがプロジェクトの醍醐味です。

多くの人は正解を求めようとするけど、世の中の流れと共に正解は常に変

豊かな時間が流れる中で生活されていると思います。それに、合理性じゃないところで語れる部分もちゃんと持っている。一方で発言はあまりされないのかもしれない。でも口にはされた語りは消費前提の言葉ではなく、生活に根差した質量のある言葉なんです。想いを話し始めると、動き出す気がします。

アートプロジェクトは地産地消だと思ってるんですよ。そこできなくていいから意味がある。となると直面するのが「まちづくり」との違いです。今回訪問する中で、「アートプロジェクトってわからない」と率直な質問がありました。その人はアーティストで、聞くとまちづくり系の人との会話がうまくかみ合わない。それは当然で、ま

経済性でははかれない
人間だけが生み出せる
豊かさの共有。

市場経済の観点から見れば、アートプロジェクトは具体的なモノを生産しているわけではない。それでも近年広がりをみせているのはなぜか、その先にあるものは何なのか。

ちづくりは、具体化する過程で求心的にならざるを得ないけれど、アートプロジェクトは、その過程で開いていく。ベクトルが違うんです。そう答えると「ああなるほど」と腑に落ちたようでした。今回のプロジェクトのミーティングでその方は、違った感じ方や対応ができるんじゃないかと思っています。

福井の風土と人々には
アートプロジェクトを受け止める
資質があると思う。

化しているし、そもそもアートに正解はない。子どもの遊びと一緒に。僕ら伴走者の仕事も企画のメリハリを出したり個性を際立たせるアドバイザーをするなど補助的なものです。技術的なことを伝えることはありますが、最後の最後は手を出しません。アートプロジェクトは、参加者がモヤモヤしながら探すプロセスが重要。これが過去のデータから答えを導き出すAIとの違いで、突拍子もないことを始めちゃうのは人間の特権でもありますね。

現在、アートプロジェクトは既存の建築を飛び出し、地域全体をフィールドに展開されている。制作過程を来場者に見せるなど市民参加型の企画も多く、作家

市場経済が求める究極は個人所有だけれど、アートプロジェクトが目指すのは豊かさの共有。参加する人々だけでなく、その周囲の人々にも変化をもたらします。気を付けた方がいいのは結果を急がないこと。参加者の内発的な「やりたい」が出てこないアートプロジェクトは進まないし、周囲の共感も得られない。経験がある人や優秀な人ほど早く進めたがるけど、のんびりと構えて、ウロウロする工程を楽しみましょう。アートプロジェクトは、そもそも一般社会の価値観では無駄といわれる行為。常識にとらわれず、不真面目になって取り組めばいいんです。

お願いになるんですが、周囲の方は直接参加しなくても「そういうものもあるんだ」と温かい目で見守ってほしいんです。自分とは違っていても「そういうものもあるんだ」と受け入れることで自らの考えもはっきりしてくる。自己肯定と他者承認は両立するんです。共感欲しいけど、人間は一人ひとり違って当たり前。みんな同じ考えだったら怖いじゃないですか。

今はストレスフルな世の中だけど、凝り固まっていた視点が変わるとふつと肩の力が抜けることもある。こうした小さな変化が共生社会の一步になると信じています。戦争は破壊行為であるのに対して、アートは創造行為なんです。世界的にいろんなことが起きている今こそ、「アート頑張れ！」って

ふくい文化創造センターとアートプロジェクトの関わり

文化芸術への公的支援に専門家が関わり、支援や評価を行う「アーツカウンシル」。昨年誕生した「ふくい文化創造センター」にはアーツカウンシルの機能がある。2026年度のふくいアートプロジェクト助成事業には44事業が採択された。同センターでは県民主体で企画・実施される文化芸術活動に、資金面だけではなく伴走支援を行っている。

が地域住民と協働し地域振興を目指すプロジェクトも少なくない。

5〜6月にかけて県内のプロジェクトをいくつか訪問して感じたのですが、福井は水に関連する文化が豊かですね。千年単位の歴史が日常に堆積していて、



真宗出雲路派本山 竜徳寺にて、ふくいアートプロジェクト助成金採択団体「お寺びらき実行委員会」のメンバーにヒアリングしている様子

思います。

ふくい文化創造センターができて、昨年はじめて福井とのご縁をいただきましたが、京都がこんなに近いとは知らなかった。個人的には大陸からの玄関口だったことや北前船の歴史、新幹線延伸などで、敦賀の街に興味があります。歴史的な素材が多い嶺南からもアートプロジェクトに手を挙げる方が増えてほしいと思っています。

〈お話を聞いた方〉森 司氏

もりつかさ●1960年愛知県生まれ。水戸芸術館で学芸員を務めた後、(公財)東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京に移籍。「東京アートポイント計画」と人材育成事業「Tokyo Art Research Lab」を2025年度までディレクション。「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の推進役を2021年度から務め、現在は「だれもが文化でつながる国際会議2026」のアート・ディレクターを担当。多摩美術大学非常勤講師、女子美術大学特別招聘教授。2026年度より福井県文化振興事業団芸術文化アドバイザー

秋のハーモニーフェスティバル

10/10(土)10:30～ ハーモニーホールふくい全館

多彩な音楽や日本の伝統文化、アートプロジェクトなど、いろいろな文化に出会える1日。発表ステージや展示、体験ブースには、ふくいアートプロジェクト助成金採択団体も参加します。ぜひお気軽にお越しください！

主催：(公財)福井県文化振興事業団 共催：福井県、(一社)福井県文化協議会



詳細はこちら

問い合わせ・相談はコチラへ



公益財団法人 福井県文化振興事業団
ふくい文化創造センター

TEL.0776-38-8280
(9:00～12:00/13:00～17:00・休館日を除く)



キーパーソン

Kato Sumiko foundation project

代表 岡 俊徳さん



おかとしのり●1980年鹿児島県生まれ。京都工芸繊維大学大学院卒業後、建築設計に従事し、2022年あわら市に移住。「以前は大きな建物を手がけたが、この土地では街全体をひとつの建築に見立てて、空き家や祭り、地場産業を組み合わせ、新しい空間や人の流れをつくり出している感覚がある」と語る

アートの息吹

ガラス工房KEiS庵けいさあん（小浜市）

光を受けてきらめく海のような、ガラスの器や小物たち。これらは「OBAMA blue」と名付けられた、「ガラス工房KEiS庵」のオリジナル作品です。庵主の竹田恵子さんが琉球ガラスの工房で修業し、ふるさとで小さな工房を開いたのは19年前。小浜ガラスとして制作を始めたものの、主な材料の砂は全国各地で使われている大手メーカーの既製品でした。竹田さんは「小浜を名乗る以上、地元で材料を使っている」と決意。それは、火力や温度

など一から見直す無謀な挑戦でした。実験炉を購入し、海岸で集めた砂に貝や魚の骨などさまざまな材料を混ぜて試作。その中で、廃棄されたカキの殻を加えてみると、安定したガラスの原料になりました。これが「オバマ・ブルー」のスタートです。

その後、駆除されたシカの骨をもらい受け混ぜてみると、今度は鉱石のような深みのある青緑が生まれました。竹田さんは「シカのいのちを漉くく上げる」の意味を込めて「漉青」と命名。試みは日本ジビエ協会を通じて広がり、各地で駆除された動物を原料に生かす動きもあるそうです。

小浜土産として全国に認知度が広がる一方、工房には地元の小学生らも見学や体験に訪れるそう。「材料や背景を知って、子どもたちがふるさとに目を向ける機会になれば」と美しいガラスに夢を託します。

ガラス工房KEiS庵

2008年設立。19年に小浜の海砂を用いたガラス製品の開発に着手。22年に「OBAMA blue」として製品化に成功。
小浜市福谷9-8-2
TEL.090-2372-1431
https://keis-an.jp
keis_ann_staff

※「アートの息吹」は県内企業のアートを通じた社会貢献活動をご紹介します。

アートプロジェクト インフォメーション

まちなかダンス

10/11(日) 14:00~、11/3(火・祝) 11:00~

●福井市観光交流センター(福井市手寄1-1-1) ●無料(定員なし) 申込不要

まちなかダンス~ナイトパフォーマンス~

9/25(金)、11/27(金) 19:45~

●PLAYCE(福井市中央1-3-5 FUKUMACHI BLOCK1階)

●1,500円(35名) 事前申込

●福井芸術・文化フォーラムのwebサイトの申し込みフォームからそれぞれ

9/1(火) 11/2(月) 受付開始

コンテンツボラリーダンスと音楽のコラボレーションイベントを月に一度、6月から11月まで福井市中心部で開催しています。年齢や障害、地域を超えた多様な出演者がダンスに参加。その瞬間に生まれる表現をお届けします。ご参加お待ちしております!

◎NPO法人福井芸術・文化フォーラム

keibun@keibun.info ☎0776-23-6905

写ルンですで僕らが残す三国の“いま”

10/3(土)~10/18(日)

三国町で暮らす人々に「写ルンです」を手渡し、それぞれの日常の断片を撮影してもらうアートプロジェクト。約150人の視点から生まれた約4,000枚の写真を通して、観光とは少し違う、暮らしの内側から見た三国の“いま”を映し出します。

●三国町内 竹澤屋物店(坂井市三国町北本町3丁目2) ●無料 申込不要

◎僕らの写真展 公式Instagram @bokurano_shashinten のDMにて

(担当:吉田あきひろ)

味真野 お寺びらき2026

9/26(土)、27(日) 14:00~21:00

いつものお寺で、いつもと違う時間を

福井県越前市・味真野の真宗本山 竜徳寺を、みんなの遊び場・居場所としてひらく2日間。緑日、マジック、謎解き、伝統芸能、座禅法話、夜は竹灯りと音楽で、いつものお寺が特別な空間に。あなたの「お寺時間」を見つけにきてください。

【開催当日】14:00~ | 賑わい時間

緑日舞台・数珠子屋・MASAYOマジックショー、5時解散ロケイング(豪華賞品が当たるよ)

16:00~ | 夕暮れ時間

棺桶体験ワーク、国定無形民俗文化財「越前万歳」

アナログレコード持ち寄り会(お気に入りの一枚を持ってくる!)

18:00~ | 非日常時間

竹灯りとアンビエント音楽、数珠くり、むげん木魚トリップ

特別企画 H1法話グランプリ2025王者 高橋玄峰住職(大安寺)の「法話と座禅」

●真宗出雲路派本山 竜徳寺(越前市清水頭町2-9) ●無料(定員なし)

◎お寺びらき実行委員会(つなぐ株式会社) ikeda@tsunagu-fukui.com

さばえまつり2026

9/26(土) 12:00~20:00、9/27(日) 10:00~17:00

3年目となる今年のテーマは「ルーツ」。連携アーティストとともに作る絵巻や紙芝居のパフォーマンスをはじめ、鯖江の風景や文化に触れるワークショップなどを実施。ライブパフォーマンスのほか、盆踊り大会を開き「イッコ音頭」をみんなで踊ります。

(連携アーティスト)川村亘平斎/武 徹太郎

(出演アーティスト)スーパーギャー/イマジン盆踊り部/湯空時間 スモールフォーメーション5

●西山公園芝生広場(鯖江市桜町3丁目8-10) ●無料 申込不要

◎さばえまつり実行委員会 公式Instagram@sabaematsuri

ふくいアートプロジェクト助成金は、地域文化の発信や新たな地域文化の創造、地域課題の解決に寄与することを目的に、県内各地で文化芸術を活用した地域活性化に取り組む事業を支援しています。(公財)福井県文化振興事業団のホームページで助成事業の一覧をご覧ください。



6月のスー氏との企画では、地域の空き家や食材を用いたインスタレーションを制作発表。二面区民館で作家から説明を聞き、改めてまちを散策する来場者の様子も見られた



7月のムストネ氏は、自身の郷土料理を紹介するワークショップを通して、参加者から各家庭の料理レシピを収集。得られたレシピはフィンランドで紹介し、日芬双方の食を用いたワークショップに展開するとのこと

【Kato Sumiko Foundation Project】
「対価を求めず、各々の知識や技術を交換することで地域文化を醸成する」ことを目的としたソーシャルデザインに取り組んでいる。2024年1月活動スタート。

■活動報告はこちらから

ks.jp

※ふくいアートプロジェクト助成金の採択事業と活動者をご紹介します。

アーティストによって掘り起こされた文化が、住民の誇りへとつながっていく。

地域に滞在する美術作家との連携を通じて、地域に眠る文化リソースの掘り起こしを行う「Kato Sumiko foundation project」。代表を務めるのは、大阪からあわら市へ移住した建築家の岡俊徳さんです。2年前、金津創作の森にある古民家「葉室」にて、海外作家の受け入れが始まると共に活動を開始しました。「作家にあわら市の面白さを案内し、興味が一致したら活動してもらおう。金津まつりや、北潟湖畔での月見など、日常の豊かさをアートで可視化する取り組みです」と岡さん。契約で活動を縛らず、手を差し伸べ合って可能性を広げる、緩やかな形を大切にしているそうです。

本年度のプロジェクト「PLACE HOLDER」では、あわら温泉街にある薬師堂や公園を舞台に、海外作家の展示やワークショップを実施。秋には市や地域のイベントと連携し、温泉街で成果を発表する予定です。「日々の暮らしに文化は息づいていて、作家がアートに取り入れると、地元の人たちが再認識して語り始める。シビックブライド(街への誇り)の芽生えを感じています」と手応えを口にします。

自身の団体を「状況に応じて、作家のコラボレーター、行政のキュレーター、滞在作家のサポーター、地域の歴史や空気を言語化するトランスレーター」の役割がある」と分析。今後について「文化をお金儲けにすると、本質がずれていく。資金を調達し工夫するのは地元の祭りの維持と同じです。地域の営みの中にアートが共存する状態をつくりたい」と話し、「ここでインスピレーションを得た作家が別の都市で作品をつくり、再びこの街に戻る循環が起ころいはじめています」とも。彼らの仕掛ける小さな連携は、あわらの街に新しい文化の層を重ねています。

一乗谷の石仏たち

秋の夕日にあの世を想う

九月も下旬に近づく、仏花とろうそく、線香、それにおはぎを持って墓参りに出かける。いわゆる秋のお彼岸

がやってくる。先祖代々が眠るお墓の前で手を合わせる、日本の伝統的な行事の一つである。

彼岸とは、春分と秋分の日のそれぞれを中日とする前後三日間を指す。春分・秋分の日には太陽がほぼ真東から昇り、真西に沈む。夕日が沈む西の彼方には、阿弥陀如来の住む極楽浄土があるとされ、仏教で悟りの世界を意味する「彼岸」と、私たちが暮らす迷いの世界である「此岸」とが最も近づくと考えられた。そして、極楽浄土に生まれ変わりたいという往生への願いは、現代の色々な風習に受け継がれている。

福井市にある戦国大名朝倉氏の城下町跡、一乗谷朝倉氏遺跡を歩くと、苔むした多くの石塔や石仏を目にする。五輪塔や、石仏など、合わせて六千基あまり。これらは主に、故人を弔う追善供養や、生前に自分の死後の供養を行う「逆修」のために造られたというところが、塔や像に刻まれた文字から読み取りとれる。なかには、極楽浄土の主である阿弥陀如来を刻んだものがあり、これらの像の多くは、親指と人差し指

で輪をつくっている。いわゆる「OKサイン」のようにも見え、これは「来迎印」と呼ばれるもので、阿弥陀如来が極楽浄土から人々を迎えに来たことを象徴している。阿弥陀如来による救いを説く一向宗とたびたび対立した朝倉氏が治める城下町であっても、人々は極楽浄土へ憧れを抱いていたようだ。もうすこし石仏に目を凝らすと、実はその姿はさまざまというところに気づかされる。例えば、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ地藏菩薩が最も多く残されている。ほかにも、千の腕を持つ千手観音、頭にいくつもの顔を表した十一面観音、炎を背負う不動明王など安らかな表情のものから怒りを表すものまで、とてもバリエーションが豊かで見ていて飽きない。

そんな石仏のなかには、剣と宝珠を持つて冠を被る像がある。これは虚空蔵菩薩という知恵と福德を授けるとされる菩薩で、普段の生活ではあまり耳慣れないかもしれない。像には妙清比丘尼逆修卅三回忌」と刻まれており、妙清という比丘尼(女性のお坊さん)が、自身の三十三回忌の供養を生前に行うためにたてたものと考えられる。同じ三十三回忌といえ、朝倉氏の当主も歴代当主の三十三回忌に虚空蔵菩薩を祀った例がある。

中世の日本では、初七日から三十三回忌までの十三回の法要に、それぞれ十三の仏を祀る十三仏信仰が広まった。初七日の不動明王に始まり、三十三回忌の虚空蔵菩薩で終わることから、この石仏も十三仏信仰にもとづいて造られたのだろう。性別や身分を問わず、三十三回忌という長い月日をもって、故人や自分自身の行く末を願っていたことがわかる。物言わぬ石仏ひとつひとつに戦国時代を生きた数多くの人々が、あらゆる方法で故人を偲び、あの世を想う。そんな姿を読み取ることが出来るのである。

近年、日本を含む世界各地で自然災害や争いが後を絶たない。さまざまな危機に直面する今だからこそ、今度のお彼岸には、西の夕空へ手を合わせてみてはいかがだろうか。



彼岸花と西山光照寺跡の石仏 撮影：北野 武男氏

古きを訪ねて

表見の米 (坂井市丸岡町)



- ①玄米をつく「米かち」。リズムを取りながら順に杵を振り下ろしていく
- ②男衆が肩を組み、唄いながら足を踏み鳴らす「おたしより」
- ③伝統の担い手、地区の小学生も参加
- ④臼を掲げて力自慢を披露する「盤もち」
- ⑤「米かち」した米は蒸して丸め、若衆が箕で撒いて参加者に振る舞う



■布久漏神社／坂井市丸岡町北横地14-29
平安時代に編纂された延喜式神名帳に記載のある古社。応神天皇、神功皇后、継体天皇の皇女円弥媛を祀る
■表見の米研修会館／坂井市丸岡町北横地43-15



※米かち…玄米を強くついて糠を取り除き精米する作業

豊穣への感謝と男衆の心意気がみなぎる。

毎年9月の第3土曜日、坂井市丸岡町北横地で布久漏神社の神事「表見の米」(県指定無形民俗文化財)が執り行われます。その由来は神社に祀られる円弥媛(継体天皇の皇女)が十郷用水の礎を築いたと伝わることから、用水の恩恵に感謝し、初穂米を奉納したのが始まりとされます。発祥時期については、江戸後期に丸岡藩が編さんした「古今類聚越前国誌」に記述が見られ、その頃には既に定着していたと考えられます。

夕闇の迫る午後6時、白装束に黒帯姿の男衆と小学三年生以上の男児が社殿前に整列。お祓いを受けた後、「庄屋殿のかどで一夜御免の」と声高らかに唄いながら表見の米研修会館まで練り歩きます。会館に到着して最初に行うのは勇壮な「おたしより」。総勢100人近くの男衆が肩を組んで円陣をつくり、「ヨイヨイソーラ」のかけ声や唄に

合わせて飛び上がり、床を踏み鳴らし、

「おたしより」が終わると神社へ戻り、杵を受け取って再び会館へ。太鼓を合図に初穂米が白に入れられると「米かち」が始まり、唄に合わせて杵を振り上げ米をついていきます。6人から12人ほどが絶妙な間合いで杵を次々に振り下ろす動きは実に見事。また、合間に行われる「盤もち」や「米かち」後の「延たき」も珍しい神事のひとつです。

「米かち」した米は蒸して神前に供えた後、丸めて参加者に振る舞います。そして翌日の早朝、「ますや」の掛け声とともに前日のおさがり(表見の米が区民に配られ、一連の神事は終了。先人から受け継ぐこれらの神事を執り行うのは地区の男衆で、「表見の米保存会」を中心に数カ月前から練習を積み、後継者育成にも力を注いでいます。



ただ・はるか●1999年福井県越前市生まれ。金沢大学人間社会学域人文学部卒業。2022年福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館に美術・工芸を担当する学芸員として兼任。専門は仏教美術史。

第27回「野の花文化賞」受賞候補者推薦の募集

ふるさとを文化を継承し、地域社会の中で個性豊かな生活文化の創造と普及にひっそりと取り組む「野の花」のような方々を顕彰する「野の花文化賞」。伝統文化の継承・普及、文化の調査研究、芸術文化活動などで地道な努力を続けておられる県内の個人・団体を他薦で募集しています。ご推薦者はどなたでも構いません。心当たりの方をぜひご推薦ください。

対象者 上記の趣旨に合致し、次のいずれかに該当する個人または団体とします

1. 地域における伝統文化を保存継承し、あるいはその普及にむききな努力を続けている個人または団体
2. 地域における文化を調査研究し、あるいは新たな創造のために地道な努力を続けている個人または団体
3. 地域における芸術文化活動等の領域において、地道な努力を重ね、あるいはその普及活動を行っている個人または団体

推薦方法／二次元コード内の推薦書(PDF、Word)をダウンロードいただき

郵送・ご持参・メールのいずれかにてご提出ください

募集締切／10月31日(土)

〈お問い合わせ・ご推薦の送付先〉

(公財)福井県文化振興事業団 〒918-8152 福井県福井市今市町40-1-1(福井県立音楽堂内)

E-mail:contact@hhf-cf.or.jp

TEL.0776-38-8280(9:00~12:00/13:00~17:00・休館日を除く)



詳細はこちら▲

第38回 ハーモニー プンカさろん 〜『皇帝』を「弾く」ということー強さと静けさのあいだで〜

平日午後の人気企画 第38回は、1月開催の「ニューイヤーコンサート2027 トマーシュ・ネトビル指揮 ブラハ交響楽団」公演のソリスト、金子三勇士を招いたトーク・ライブ・イベント。バルトーク国際コンクール優勝の実力派ピアニストが、ベートーヴェンのピアノ協奏曲 第5番「皇帝」をどう解釈し、どのように演奏に向き合ってきたかを語ります。「ニューイヤーコンサート」を前にその音楽の世界を深く知れる、贅沢な午後のひとときです。

開催日時／10月6日(火) 13:00 開場 13:30 開演

発売中

会場／ハーモニーホールふくい 小ホール

料金／全席自由・車いす席 ¥2,500(鑑賞のみ/スイーツ・コーヒー付きチケットは売切) ※各種割引なし

出演／お話し・演奏／金子三勇士(ピアノ)

お問い合わせ (公財)福井県文化振興事業団 事業部 TEL.0776-38-8289(9:00~12:00/13:00~17:00・休館日を除く)



金子三勇士

編集後記

朝倉由希氏のエッセイが語る、本棚の前で探している一冊や未知の世界に出会う価値の大きさに深く頷かれます。検索で瞬時に答えに辿り着ける現代において、偶然の出会いが持つ意味は絶大です。世界的IT起業家ビル・ゲイツ氏も「AIは人間そのものを代替し関係性を希薄化する」と警告します。効率化が進む時代だからこそ、ホーメルで人が創り出す響きに包まれる感動や、地域の人々や歴史に直接触れるリアルな体験価値が再認識され始めています。

本誌で紹介する秋の公演や各地の文化活動へ足をお運びいただき、予測不能な感動との出会いをお楽しみください。日常から一歩踏み出し、豊かな体験を重ねるひとときが、皆様の感性を揺さぶる新たな扉を開きつかけとなれば幸いです。

【ハーモニーホールふくい 特別協賛社ご芳名】 ※50音順

公演協賛社(2026.4-2027.3)

URALA communications 関西電力 power with heart

公財財団法人 げんてんふれあい福井財団 Kaneco 興和江守株式会社

NICCA FM FUKUI

福井銀行 FCTV SCTV

福井新聞社 福井信用金庫

福井テレビ FBC

FUKUVI 株式会社増田書

ますも証券

法人協賛社

JAKUETS 株式会社新内 福井県民協 福井銀行 福井県JAバンク

福井信用金庫 福井フェニックスストア FUKUVI 北陸銀行 三谷商事株式会社

Essay

敦賀市「ちえなみき」と「氣比の杜」に見る文化施設の新しい形

文 朝倉由希

敦賀駅前前の公設民営書店「ちえなみき」は、2022年の開業以来、独創的な空間と選書で注目を集めてきた。来訪者にとっての「玄関口」、市民にとっての「居場所」として、北陸新幹線の敦賀延伸から2年余りが経った今も、敦賀駅前に交流とにぎわいを生み出している。

ちえなみきは、新たな学びや価値を生み出す「知の拠点」「知の情報インフラ」として構想された。民間書店では収益性の面から扱いにくい本も含め、知性や感性を刺激する本が並ぶ。読書離れや書店の減少が続き、検索やAIによって必要な情報へ瞬時にたどりつける時代だからこそ、本棚の前で立ち止まり、探しているなかった一冊や未知の世界に出会う経験の意味は大きい。

敦賀市は駅前の一等地を、飲食や物販、宿泊といった収益性の高い機能だけに委ねず、行政が知育・啓発機能を組み込み、市民が日常的に滞在できる居場所や、人と人が緩やか



本との出会いから人と人とのつながりが広がる「ちえなみき」

につながる場を確保した。売上だけでは測れず、市場では成り立ちにくい機能を、社会に必要なものとして行政が支える。そこから市民自身の学びや活動が生まれ、実践が積み重なり、世代を超えて受け渡されていく。こうした過程が、人々の創造的な生き方を支える基盤となる。

この考え方は、これから氣比神宮周辺に整備される文化施設「氣比の杜」の構想にも展開されている。1300年息づく物語と文化を伝え、これからの1300年を一緒に創っていくことを目指し、市民の居場所を長い時間軸で育てようとしている。

従来、文化施設は、図書、美術、歴史など、ジャンルや機能ごとに整備されてきた。しかし「氣比の杜」では、図書、アート、歴史に加え、公園、公民館、防災などの機能も重ね合わせ、一体的なものとして扱おうとしている。ジャンルからではなく、人間を起点に文化施設を考える発想である。人が何に出会い、何を感じ、

どのように関心を広げ、活動を始めのか。人々の内側で起こる「探求」と、人と人との関係から生まれる「創発」を促す環境そのものをつくらうとしている。文化は、一つの事業で完成するものではなく、世代を超えた営みの蓄積によって形づくられていく。

先日、これらの敦賀市の実践を題材に、私もメンバーのひとりとなっている「新しい文化政策プロジェクト」の公開勉強会を行った。本プロジェクトは、「文化」を人々の生き方や互いの関係を形づくる基盤と捉え、人々の生き方すべての基盤となる社会のあり方を示す文化政策を志向している。時間をかけて価値を育てること、社会に余白を残すこと、分野の壁を揺さぶり続けること。市場の短期的な評価にも、行政の単年度の時間軸にも取まらない価値を社会に確保する文化政策の実践が、敦賀ではまちづくりそのもののなかに形を現し始めているように感じた。



あさくら・ゆき●福井市生まれ・在住。京都大学文学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学博士後期課程修了。博士(学術)。アートマネジメント、文化政策を専門とする。文化庁地域文化創生本部研究官、公立小松大学国際文化交流学部准教授を経て、2026年4月から福井県立大学地域政策学部地域イノベーション学科教授。福井県芸術文化アドバイザー。